

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

大正五年七月一日發行

號一第

卷三第

## 論說

資本ノ概念

法學博士 河上 肇

資本利子税設定ノ氣運

法學博士 神戸 正雄

支那近代ノ戸口ニ就テ(一)

文學博士 内藤虎次郎

續正貨蓄積論

法學博士 小川郷太郎

戸田博士ノ不換紙幣論ヲ讀ミテ

法學博士 福田 德三

保險本質論(二)

法學士 小島昌太郎

## 雜錄

經濟雜誌第四

法學博士 田島 錦治

聯合諸國輸出入禁制ノ我國ニ及ボス影響ニ就テ

法學博士 戸田 海市

對露輸出品代金ノ支拂濟ニ就キテ

法學博士 神戸 正雄

經濟戰爭ト我貿易上ノ利害

法學士 河田 嗣郎

現前ノ大戰爭ニ就テノ感想

米田庄太郎

乳兒死亡率ト出生率トノ關係

文學士 高田 保馬

らぐれー「みる」學說ノ研究(二)

商學士 大塚金之助

本多利明ノ經濟說ニ關シ本庄學士ノ教ヲ乞フ

法學博士 福田 德三

米國ニ於ケル移民教育機關

山本美越乃

補習教育義務ノ可否

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

# 保險本質論 (二)

小島昌太郎

## 序論

保險ノ本質ニ關スル諸種ノ學說ハ、曩ニ「保險學說ノ發展」ト題スル研究ニ於イテ、大畧之ヲ紹介シ、且ツ批評ヲ加ヘタリ。<sup>(1)</sup>而シテ、該研究ニ於テ紹介シタルガ如ク、最近ノ保險學說ハ、保險ヲ以テ偶發的ナル經濟欲望ヲ充足スルコトヲ目的トナスモノナリト説明シ、損害分擔、危險轉嫁等ノ觀念ヲ探ラズ。蓋シ、是等ノ觀念ヲ以テシテハ、單ニ所謂損害保險ノミヲ説明シ得ルニ止マリ、生命保險ト損害保險トニ通シテ一般ノ保險ヲ統一的ニ説明スルコト能ハザレバナリ。吾人モ亦固ヨリ此見解ニ從フ。然レドモ、從來、此見解ニ基キテ保險ヲ論シタルモノノ說ヲ見ルニ、保險ノ定義若シクハ其概括的説明ハ此見解ニヨリテ之ヲナシタレドモ、各個ノ問題、例ヘバ保險ノ容體ニ付キ詳細ノ説明ヲナスニ當リテハ、今尙損害分擔說ノ舊見ニヨル所アリテ、<sup>(2)</sup>保險論全體ヲ一貫スルニ此見解ヲ以テセズ、言ハバ、彼等ハ保險ヲ統一的ニ説明シ得ベキ學說ノ端緒ヲ作リタルニ過キズシテ、其完成ハ之ヲ後學ノ研究ニ殘セリ。之レ吾人ガ今回「保險學說ノ發展」ニ次イデ本篇ヲ起稿シ、以テ大方ノ此正ヲ乞フ所以ナリ。

## 第一 保險ノ成立理由

(1) 經濟論叢第一卷六號及第二卷二號所載、

(2) 經濟論叢第二卷二號二五八頁參照、

現時ノ經濟組織ノ下ニ於テ、私經濟ノ運營ヲナスニハ、準據スベキ原則ニアリ。其一ハ入ヲ量リテ出ヲ制スルト云フ原則ニシテ、其二ハ、言フ迄モナク、經濟ノ原則——經濟主義——ナリ。私經濟ハ、第一ノ原則ニ準據シテ運營セラルベキモノナル結果トシテ、準備財産ヲ作成スルノ必要アリ。而シテ準備財産ヲ作成スルニモ、第二ノ原則ニ準據セザルベカラザルガ故ニ、其準備財産ハ經濟的ナルモノナラザルベカラズ。故ニ私經濟ニ於テハ、保險ト云フ仕組ニヨリテ、準備財産ヲ作成スルノ必要アリ。是レ、吾人ガ保險ノ成立理由トシテ述ベントスル論ノ要旨ナリ。

### 一 私經濟ノ運營ト準備財産

入ヲ量ツテ出ヲ制スト云フ原則ハ、例ヘバ百圓ノ收入ヨリハ、百圓以上ノ支出ヲナスコト能ハズト云フガ如キ、單純ナル事柄ヲ示スモノニアラズ。斯ノ如ク解釋スレバ、ソレハ數學ノ公理タルニ止マリ、未ダ經濟上ノ原則ナリト云フコト能ハズ。此原則ガ經濟上ノ原則タリ、又特ニ私經濟ニ關スル原則トシテ立ツハ、特別ノ意義ヲ有スルニ由ル。抑モ、今日ノ經濟組織ノ下ニアリテ、私經濟ガ收入ヲ擧グルニハ、勞力ヲ提供シ又ハ資本ヲ運用シ、其報酬トシテ之ヲ獲ルノ外ナク、必要ニ應シテ、國家若シクハ社會ヨリ、金錢上ノ供給ヲ受クルコトヲ得ズ、又公經濟ニ於ケルガ如ク、必要ニ應シテ強制的ニ、收入ヲ擧クルコトヲ得ザルナリ。即チ私經濟ノ收入ハ、其私經濟ノ運營ニ與ツカル人々ノ經濟能力ト、其私經濟ノ有スル生産財産トニヨリテ制限セラルルモノニシテ、支出必要額ニ應シテ獲得スルコトヲ得ルモノニアラズ。之レ公經濟ノ收入ガ支出必要額ニ應シテ徴收セララルルモノト、其性質ヲ異ニスル所ナリ。私經濟ノ收入ニハ、斯ノ如ク、一定ノ制

限アルガ故ニ、從ツテ其支出ニモ亦同一ノ制限アリテ、如何ナル必要アルモ、此制限ヲ超エテ支出スルコトヲ得ズ。若シ強イテ此制限ヲ超エテ支出セント欲セバ、其私經濟ハ終ニ破産スルノ外ナシ。此ニ於テ、私經濟ノ運營ヲナスニハ、收入ヲ顧慮シテ然後支出ヲナスコトトナサザルベカラズ。入ヲ量ツテ出ヲ制スト云フ原則ハ此事柄ヲ示ス。ソレ故ニ此原則ハ經濟上ノ原則トナリ、且ツ私經濟ニ關スル原則トナルナリ。

斯クノ如ク、此原則ハ私經濟ノ本質ヨリ生ズルモノナルガ故ニ、企業ノ經濟タルト家計ノ經濟タルトヲ問ハズ、將タ生産ノ目的ヲ以テナス支出タルト、享樂ノ目的ヲ以テナス支出タルトヲ分タズ、皆此原則ノ支配ヲ受ク。然レトモ、此原則ハ毎期間常ニ支出額ヲシテ收入額以內ニ止ムベキコトヲ要求スルモノニアラズ。蓋シ、縱ヒ或期間ニ於テ支出額ガ收入額ニ超過スルコトアルモ、此超過ノ部分ガ、之ヨリ前又ハ後ノ他ノ期間ノ收支餘剩ニヨツテ埋メ合サレ得ルナラバ、其私經濟ハ破産スルコトナケレバナリ。殊ニ、毎期間ノ支出額ハ必ズ之ヲ其收入額以內ニ止マラシムベキモノトセバ、私經濟ノ運營ハ甚タ窮屈トナリ、時トシテ運營不能ニ陥ルコトナキニアラザルベシ。故ニ此原則ハ長期間ニ亘リ、結局ニ於テ、支出ヲ收入ノ範圍ニ止ムベキコトヲ示スモノナリト解釋スベキモノナリ。

私經濟ノ運營ニ於テハ、右ニ述ブルガ如ク、各個ノ期間ニ於テ常ニ收入額ト支出額トヲ適合セシムルノ要ナシト雖モ、長期間ニ於テハ、全體トシテ支出ヲ收入ノ範圍ニ止メザルベカラザルガ故ニ、其運營上支出必要額ト支出可能額トノ調和ヲ計ルハ最も重要ナル事柄ナリ。蓋シ、既ニ見

タルガ如ク、私經濟ノ收入ハ其支出必要額ニ應シテ獲得セラルルモノニアラザルガ故ニ、或期間ニハ收入額ガ支出必要額ヨリ大ナルコトアリ、又他ノ期間ニハ收入額ガ支出必要額ヨリモ小ナルコトアリ、前ノ場合ニハ收支餘剰ヲ生スベク、後ノ場合ニハ收支不足ヲ來スベシ。此收支餘剰ナルモノハ、固ヨリ支出シテ差遣ナキモノナルガ故ニ、一ノ期間ニ生ジタル收支餘剰ハ、ソレダケ、他ノ期間ノ支出可能額ヲ大ナラシムルモノナリ。故ニ或期間ニ於テ收入以上ニ支出ヲナスベキ必要起ルトキハ、他ノ期間ノ收支餘剰ヲ融通シテ之ヲ支出スルコトヲ得、又之ニヨリテ支出ヲナスモ毫毛入ヲ量ジテ出ヲ制スルノ原則ニ違背スルコトナシ。支出必要額ト支出可能額トノ調和ヲ計ルト云フハ即チ此事柄ヲ指スモノニシテ私經濟ノ運営上最モ必要ナル事柄ナリ。

支出必要額ト支出可能額トヲ調和セシムルノ方法、即チ或期間ノ收支餘剰ヲ以テ、他ノ期間ノ收支不足ニ融通スルノ方法ニニアリ。其一ハ借財ニシテ、其二ハ準備財産ナリ。借財ハ未來ノ收支餘剰ヲ以テ現在ノ收支不足ニ融通スルノ方法ニシテ、準備財産ハ現在ノ收支餘剰ヲ以テ未來ノ收支不足ニ融通スルノ方法ナリ。借財ハ支出必要額ト支出可能額トヲ調和セシムルガ爲メ必要且ツ可能ナル方法ナレドモ、此方法ハ畢竟未來ノ收支餘剰ヲ以テ現在ノ收支不足ニ融通スルニ過ギザルモノナレバ、未來ニ於テ收支餘剰ガ生ズル見込ナクシテハ、借財ニヨルコト能ハズ。何トナレバ、未來ニ於テ收支餘剰ガ生ゼザルニ、借財ニヨリテ收入以上ノ支出ヲナストキハ、此收支超過部分ヲ埋合スニ由ナク、即チ借財ヲ返済スルコト能ハズシテ、終ニ其私經濟ハ破産ヲ來スノ結果ヲ招クベケレバナリ。而シテ、借財ニヨリテ收入以上ノ支出ヲナシ、而モ後ニ收支餘剰ヲ生ジ得ルコトノ比較的確實ナル場合ト云ヘバ、借財ヲ以テ直チニ營利ノ目的ニ支出スル場合ナリ。其他ノ場

合ニ於テハ、未來ノ事柄ハ概シテ不確實ナルガ故ニ、未來ノ收支餘剩ヲ頼ミテ、借財ヲナスハ、私經濟ノ運營トシテ危險ナル手段ナリト云ハザルベカラズ。故ニ支出必要額ト支出可能額トノ調和ヲナスニハ、更ニ第二ノ方法タル準備財産ノ作成ニヨラザルベカラズ。

準備財産ハ收支餘剩ヲ以テ作成セラルルモノニシテ、未來ノ或期間ニ於ケル收入額ガ支出必要額ニ不足スル場合ニ、之ニヨリテ其支出ヲナシ、以テ金錢上ノ必要ヲ充スノ役目ヲナスモノナリ。サレバ準備財産ノ物體トシテ最モ適當ナルモノハ、金錢若シクハ何時ニテモ容易ニ金錢ニ換ヘ得ルモノナリ。但シ、收支餘剩ナルモノハ必ズシモ之ヲ以テ準備財産ノ作成ニ充テザルベカラザルモノニアラズ。既ニ或程度ノ準備財産ノ設ケアルトキハ、ソレ以上ハ如何ナル目的ニ使用スルモ可ナリ。只、經濟ノ基礎ヲシテ益々安固ナラシメムト欲セバ、之ヲ享樂ノ目的ニ支出シテ仕舞ハザルコトヲ要スルノミ。

抑モ經濟上ノ不安ハ支出スベキ必要アルニ係ハラズ、之ヲ支出シ得ザルコトアルヲ顧慮スルヨリ生ズルモノナリ。然ルニ、準備財産ノ設アルトキハ、支出スベキ必要生ゼバ、何時ニテモ之ヨリ其支出ヲナスコトヲ得ルガ故ニ、支出不能ヲ憂フルコトヲ要セズ、從ツテ經濟上ノ不安ヲ免ルコトヲ得ベシ。故ニ準備財産ナルモノハ、私經濟ノ收入ニハ一定ノ制限アルニ因リ、經濟上ノ不安ヲ除却スルガ爲メニハ、之ヲ作成スルノ必要アルモノナリト云フコトヲ得。

## 二 準備財産ト保險

準備財産ハ、前述ノ如ク、收支餘剩ヲ以テ作成セラルベキモノナルガ、之ヲ作成スル方法トシテ、何人モ先ツ思ヒ付クハ、夫ノ單純貯蓄ナリ。單純貯蓄トハ一個ノ經濟主體ガ自己ノ經濟ノ

收支餘剰ヲ、單獨ニ自己ノ經濟ニ於テ、時ト共ニ蓄積スルヲ云フ。單純貯蓄ガ準備財産作成方法トシテ如何程ノ重要義ヲ有スルカハ、準備財産ヲ作成スルノ目的ニヨリテ決定セザルベカラズ。今、人ガ準備財産ヲ作成スル目的ヲ察スルニ、(一)只漠然ト未來ニ金錢上ノ必要ガ生ズベキコトヲ考慮シテ、之ヲ作成セントスルコトアルベシ、又(二)一定ノ事件ガ未來ニ發生スルコトアルベキヲ豫想シ、且ツ其事件ニ關聯シテ金錢上ノ必要ノ生ズベキコトヲ考慮シテ、之ニ備フルガ爲メニ準備財産ヲ作成セントスルコトアルベシ。準備財産ヲ作成スルノ目的ガ(一)前者ナルトキハ單純貯蓄ニヨルノ外ナク、又之ガ其目的ニ適當ナル方法ナリ。然レドモ(二)後者ナルトキハ、更ニ之ヲ二分シテ、(イ)其豫想スル所ノ事件ガ必然性ヲ有スル場合ト、(ロ)偶然性ヲ有スル場合トニ付キテ、各別ノ觀察ヲナサザルベカラズ。(イ)金錢上ノ必要ヲ惹起ス所ノ事件ガ必然性ヲ有スル場合、即チ其事件ノ發生スル時期確定ニシテ發生シタル場合ニ要スル金額モ確定ナルトキハ、單純貯蓄ニヨリテ準備財産ヲ作ルコト適當ナリ。然レトモ、此場合ニ於テモ、單純貯蓄ニヨリテ、豫定ノ時期ニ豫定ノ金額ヲ得ルニハ、其時迄繼續シテ收支餘剰ノ生ズルコトヲ要ス。若シ其時期ニ至ルニ先ダチ、收支餘剰ガ生ゼザルニ至ラバ又豫定ノ金額ヲ蓄積スルコト能ハザルベシ。次ニ、(ロ)金錢上ノ必要ヲ惹起スベシト豫想スル所ノ事件ガ、偶然性ヲ有スル場合ニハ、單純貯蓄ニヨリテ準備財産ヲ作ルハ不完全不經濟ナリ。金錢上ノ必要ヲ惹起ス事件ガ偶然性ヲ有スト云フハ、其事件カ抑モ發生スルヤ否ヤガ不確定ナルカ、發生スルコトダケハ確實ナレトモ、何ヅレノ時ニ發生スルヤガ不確定ナルカ、又ハ其發生シタル場合ニ、幾許ノ金額ガ必要トナルカガ不確定ナルヲ云フ。カカル場

合ニ單純貯蓄ニヨリテ準備財産ヲ作ルトキハ、若シモ其豫想ノ事件ガ遂ニ發生セザルカ、又ハ發生スルモ之ガ爲ノニ必要トナル金額ガ蓄積額ヨリモ少ケレバ、其全額若シクハ差額ハ、之ヲ蓄積セズシテ、既ニ生産ノ目的又ハ消費ノ目的ニ支出シタル方效果大ナルベク、又之ニ反シ、豫想ノ事件ガ意外ニ早く發生シテ、蓄積額ガ必要額ニ足ラザルナラバ、折角ノ蓄積モ殆ド其效果ヲ奏セザルベシ。故ニ、カカル場合ニ對スル準備財産トシテ單純貯蓄ノ方法ニヨルハ、經濟ノ原則ニ準據シテ私經濟ノ運營ヲナスノ主義ニ適セズ、又之ニヨルモ充分ニ經濟上ノ不安ヲ除クコトヲ得ザルベシ。サレバ經濟ノ原則ニ準據シテ私經濟ノ運營ヲナスニハ、更ニ他ノ適當ナル方法ニヨリテ準備財産ヲ作ラザルベカラズ。保險ガ即チ此ノ目的ニ對シ最セ適當ナル方法ナリ。

保險ハ、一個ノ經濟主體ガ、單獨ニ自己ノ經濟ニ於テ、收支餘剩ヲ蓄積スル方法ニアラスシテ、多數ノ經濟主體ガ相寄りテ一ノ團體ヲナシ、金錢上ノ必要ヲ惹起スベキ偶然ナル事件ヲ豫定シ、且ツ時トシテハ、收入ノ減少ヲ來スベキ偶然ナル事件ヲモ考慮ニ入レ、是等ノ事件ノ發生蓋然率ニ從ヒテ、各自ノ收支餘剩ノ中ヨリ各々醜金ヲナシ、之ヲ集積シテ共通ノ準備財産ヲ作り、團員ニ豫定ノ事件ガ生ジタル場合ニ、此共通準備財産ヨリ一定ノ給付ヲナス仕組ナリ。此仕組ハ一ノ原則ヲ基礎トシテ成立ス。即チ各個人ニトリテハ、偶然性ヲ有スル事件モ、一團ノ多數人ニアリテハ經驗ト推理トニヨリテ、其事件ノ發生回數及ヒ發生ノ時間的配列狀態ヲ豫知スルコトヲ得テ、其偶然性ヲ失フト云フ原則是ナリ。保險團體ニ於テハ、此原則ニヨリテ、其團體員ガ全體トシテ一定ノ事件ニ關聯シテ必要トナルベキ金額ヲ豫測スルコトヲ得ルガ故ニ、此金額ヲ全員ニ割當テ、各員ヨリ其割當額ヲ醜出セシムルトキハ、團員中ノ何人ニ何時豫定ノ事件ガ發生スルモ、其必要

(3) Hülse. Versicherung und Wirtschaft. (Conrad, Jahrb. f. N. u. S. März, 1915) S. 312, 313. 參照。



額ヲ給付スルコトヲ得ベシ。又之ヲ團員ヨリ見ルニ此任組ニヨルトキハ、過大ノ節約ヲナスコトナク、過少ノ準備ニ憂フルノ要ナクシテ、其事件ニ對スル經濟上ノ安心ヲ得、又實際事件ガ發生シテ金錢上ノ必要ガ生シタル場合ニハ、保險團體ヨリノ給付ニヨリテ確實ニ其必要ヲ充スコトヲ得ベシ。又保險團體ニ於テハ、前述ノ原則ニヨリテ團員中ノ幾何ノ人員ガ、如何ナル時間的配列ニ於テ、一定事件(主トシテ死亡)ノ結果、收入ノ減減ヲ來スベキカヲ豫測スルコトヲ得ルガ故ニ、釀金ヲ年拂其他割賦法ニヨリテ徵收スル場合ニ、此收入減減ヲ惹起ス事件ヲ考慮ニ入レテ釀金額ヲ定ムレバ、團員ハ此事件ニヨリテ收入ヲ減減シタルトキ、爾後釀金ヲナスヲ要セズシテ、而モ豫定ノ金額ヲ獲得スルコトヲ得ベク、收入減減ノ結果準備財産ノ作成ヲ妨ケラルルコトナシ。故ニ一定事件ニ關聯シテ生ズル金錢上ノ必要ヲ充ス目的ヲ以テ準備財産ヲ作成スルニハ、保險ニヨルヲ最モ完全且ツ經濟的ナリトス。然レドモ、保險ニヨリテ準備財産ヲ作ルニハ、根本條件トシテ、金錢上ノ必要ヲ惹起ス所ノ事件ガ豫想シ得ラルルコトヲ要ス。換言スレバ、一定ノ事件ガ發生スレバ金錢上ノ必要ガ生スベシト云フコトガ、豫想シ得ラルル場合ニ限り、其事件ニ對スル經濟準備トシテ保險ガ成立シ得ルナリ。然ルニ私經濟ニ於テハ、金錢上ノ必要ヲ惹起スベキ事件ノ種類殆ト無數ニシテ、其中、自己ガ遭遇スルコトアルベキヲ豫想シ得ル事件ハ極メテ少數ナリ。從ツテ、準備財産ヲ作ルガ爲メニ、保險ニヨルコトヲ得ル範圍ハ、割合ニ狭少ナルガ故ニ、私經濟ノ運営ニ於テハ、單純貯蓄ヲ無視スルコトヲ得ザルナリ。